

# 大学生が提案する備後方言の活用方法 —クロスワードパズルと脱出ゲーム—

岩崎 真梨子  
(人間文化学科)

本研究では、地域方言の活用方法について実践的な活動を踏まえて検討した。特に、大学として大学生が参加できる方言研究を模索し、地域と関わるツールを開発することを目的とした。具体的には、①主に大学生を対象とした若年層が備後地域の方言をどの程度認知しているかアンケートによって調査し、②大学生を主体とした方言研究チームを作り、③地域に提供する備後方言（備後弁）のツールとして、方言クロスワードパズルと脱出ゲームを考案した。学生たちは自身の家族に地元の方言を尋ねるなど積極的に研究活動に参加した。今後は、開発したツールを地域で公開し、方言の保存・継承活動をしている方々とも連携して地域方言の研究を進めていきたいと考えている。

【キーワード 実践方言研究 地域方言 備後方言 実践報告】

## 1. はじめに

近年、全国的に方言の価値が見直され、各地域で方言集や方言辞典が盛んに編纂されている。しかし、これらの資料は自治体や個人による作成が多く、専門的な編集が十分に行われないことが課題とされている。衣畑 (2019) では、次のように記述されている。

辞書は各地の方言話者自身がまとめたものが相当数存在しており、現地の図書館や学校などに所蔵されているのをよくみかける。【略】こういった話者の手による辞書を研究に生かさない手はないが、すべてがそのまま後世まで記録として残せるように完成されているというわけではない。標準語の辞書は編集のプロによって作成されている。一方、方言話者は話し手としてはプロであっても、その辞書は編集のプロによって作成されていない（ことが多い）。【略】研究者はそれを後まで使える記録として残せるようさまざまな工夫をこらす必要がある。 (p. 230)

こうした現状に対し、方言研究者が地域の方言保存・継承活動に関与する例が増加していることもまた周知の事実といえるだろう。

備後地域でも、方言の保存や継承に取り組んでいる個人や団体が存在する。この研究内容をどのように活用していくか検討することは重要である。一方で、方言に興味を持つ大学生や中高校生もいる。こうした若年層は、方言（伝統方言を指していることが多い）に馴染みがないと思っていることもある。地域で方言の保存・継承活動をしている方々と、方言に興味を持って学びたいと考えている若年層とでは、方言に対する考え方や姿勢が異なり、交流する機会も少ない。若年層と伝統方言を使用する層（主に高齢層）の共通点を見出したり接点を作ったりすることで、方言の保存・継承活動や方言教育に建設的な影響を及ぼす可能性があると考えられる。

そこで、本研究では、地域方言の活用方法について実践的な活動を踏まえて検討した。特に、大学として大学生が参加できる方言研究を模索し、地域と関わるツールを開発することを目的とした。具体的には、①主に大学生を対象とした若年層が備後地域の方言をどの程度認知しているか調査し、②大学生を主体とした方言研究チームを作り、③地域に提供する備後方言（備後弁）のツールとして、方言クロスワードパズルと脱出ゲームを考案した。本稿はアンケート調査の結果や活動内容をまとめたものである。

## 2. 先行研究

西日本、特に九州地方に着目すると、別府大学の松田美香氏が『野津原方言集』（大分県）の編纂者有志と共同で研究に取り組んでいる。松田(2024)では、方言集のPDFや、大学生による方言昔話の音読の披露の様子について記

されている。方言集を地域住民とともに編纂する取り組みとして、古川・前田・門屋(2017)がある。これは、無人となった長崎県小値賀町藪路木島の方言を採集したものである。東日本の東北地方では、佐藤高司氏の「ぐんま方言カルタ」や大学生の作成する方言教材に関する一連の研究がある。たとえば佐藤高司(2016)では、大学生が作成した方言カルタやすごろく、電子紙芝居について、地域で紹介している様子を取り上げられている。また、2011年の東日本大震災を機に、岩手大学・弘前学院大学・八戸工業大学が共同で「語るびゃ・語るべし青森県の方言」という昔話集の方言を語り部が語るという取り組みがなされている。こうした方言研究の取り組みは、日本語を母語とする人々だけでなく、日本語を学ぶ外国人にも向けられている。その例として、斎藤敬太(2023)では、東北地方在住の日本語非母語話者を対象とした方言理解支援ツールが公開されている。

筆者が特に着目するのは、佐藤高司(2016)や松田(2024)で取り込まれているような、大学生が参加する形の実践的な方言研究である。

### 3. 事前調査 (方言アンケート調査)

#### 3-1. アンケート概要

研究にあたって、若年層がどの程度方言に興味を持っているか、また地域方言を認知しているか調べるために、備後地域で学ぶ大学生に向けて広島県の方言に関するアンケート調査を行った。調査した方言は、佐藤亮一編(2009)『都道府県別 全国方言辞典』(三省堂)ならびに『出身地がわかる! 気づかない方言』(篠崎晃一+毎日新聞社、毎日新聞社、2008年)より抜粋した86語である。

表1 調査方言一覧

方言	共通語	方言	共通語
1. あずる	てこずる。あがく。難儀する。	47. なるい	[県北]平坦だ。平らだ。
2. あばすれる	騒ぎたてる。ふざける。	48. に一な	新しい。新奇な。新規な。
3. あらましな	粗雑だ。ぞんざいだ。	49. にぎり	けち。物惜しみをする人。
4. あんびん	餡入り餅。	50. にゅーになる	動物が妊娠する。孕む。身籠もる。
5. いたしー	窮屈だ。難しい。わずらわしい。	51. ねつい	[備後]しつこい。くどい。
6. いちがいもん	一概者。強情者。頑固者。いっこくもの。一徹者。	52. ねんごーたれる	くどくど説明する。気の利いたことを得意気に言う。
7. いぬる	去る。帰る。もどる。	53. の一たくれる	[安芸]怠ける。ずるける。横着をする。
8. いびせー	[安芸]恐ろしい。こわい。	54. のすける	[安芸]手渡す。近寄せる。
9. うつり	返礼の品。おかえし。	55. はちまん	お転婆娘。
10. えーかわん	買うことができない。	56. はぶてる	腹を立てる。怒る。
11. えっと	たくさん。分量多く。仰山。	57. ばやく	[備後]騒ぐ。にぎやかす。ふざける。たわむれる。おどける。
12. えんこー	河童。	58. びき	蛙。
13. おじゃみ	お手玉。	59. ふるつく	鼻。
14. おどれ	お前。貴様。次。	60. へこさか	逆さま。さかさ。あべこべ。
15. おどろく	目が覚める。	61. へたる	座る。正座する。うずくまる。
16. おぶける	驚く。びっくりする。	62. ほ一た	[備後]頬。ほっぺた。
17. おらぶ	叫ぶ。大声をあげる。	63. ぼ一ぶら	[備後]南瓜。かぼちゃ。
18. かざむ	嗅ぐ。		
19. かたぐ	(荷物を1人で)肩に担ぐ。		
20. かもう	からかう。もてあそぶ。		

21. がんす	[安芸]ございます。あります。	64. ほかす	[県南部]捨てる。放る。
22. きばる	励む。精を出す。頑張る。	65. ぼっこー	[備後]たくさん。どっさり。大量に。いっぱい。仰山。
23. きょーとい	[備後]恐ろしい。こわい。不安だ。とんでもない。ひどい。	66. ぼてる	[備後]水分を吸って膨らむ。
24. きりば	[備後]まな板。俎板。真魚板。	67. ぼに	[備後]盆。盂蘭盆会。盆祭り。
25. くじゅーくる	むずかる。ぐずる。	68. ほぼろをうる	嫁が勝手に里へ帰る。
26. くわいちご	桑の実。	69. まつぼり	内証金。へそくり。
27. けんげん	[安芸]片足飛び。	70. みてる	無くなる。尽きる。死ぬ。
28. ごきあらい	水すまし。御器洗い。	71. みやすい	たやすい。簡単だ。
29. こくば	[備後] 枯れ松葉。落ち松葉。	72. むかわり	一周忌。一回忌。小样忌。
30. さでくりおちる	ころげおちる。	73. めげる	壊れる。毀れる。砕ける。だめになる。
31. さばる	[備後] しがみつく。すぎる。	74. もとーらん	つまらない。首尾一貫しない。役に立たない。訳が分からない。賢明でない。
32. ざまくな	乱雑だ。	75. やねこい	難儀だ。面倒だ。むずかしい。
33. すぼれる	すぼむ。しぼむ。縮む。	76. やんす	[備後]ございます。
34. そーれん	葬式。葬儀。葬礼。葬列。	77. よざるひき	夜遅くまで起きている人。
35. そそね	うたたね。仮り寝。	78. たちまち	とりあえず。
36. そばり	[備後]棘。とげ。※「すいばり」も可	79. ええがにいかん	うまくいかない。
37. たお	とうげ。峠。	80. ふうわりい	恥ずかしい。きまりが悪い。
38. たばける	[備後]驚く。びっくりする。	81. たいぎー	疲れた。
39. だんだん	ありがとう。感謝の挨拶。	82. よぼう	醤油さしなどから液体を注ぐとき、口を伝うこと。
40. つまらん	[備後]だめだ。つまらない。	83. ちゃり	もみあげ
41. でいえ	[安芸]分家。分かれ。別家。	84. なげる	元の位置に戻す。
42. どがーに	どのように。いかさまに。	85. よーる	言っている。
43. だろおとし	田植え休み。慰労日。	86. そびら	棘。とげ。
44. だんどろさん	雷。神鳴り。いかずち。		
45. なす	返す。戻す。返却する。		
46. なば	茸。きのこ。たけ。木の子。		

調査は、授業を通してインターネット上で行った。設問は全部で94項目あり、そのうち92項目が選択式である。記述式2項目については、「広島県出身の学生が、備後地域と安芸地域のいずれの出身か分からない場合に地名を記述する」と「複数回の引っ越しあるいは県外への引っ越しを経験した場合に県名や地域名を記述する」というものである。参考として、実際のアンケート画面の一部を本稿の末尾に示す。

各方言に関しては、「使用する」「過去使用した」「聞いたことはある」「知らない」「分からない」のうち、ひとつだけを選択することとした<sup>1</sup>。

### 3-2. アンケート調査結果

アンケートの全回答数は115で、うち有効回答数は92(80%)であった。

回答者の年齢は、10代が69名(75%)で、20代が23名(25%)である。性別は、男性47名(51%)、女性45

<sup>1</sup> 方言のなかには共通語と同じ語形のものもあるため、佐藤亮一(2009)で挙げられている用例を提示し、意味が理解しやすいようにした。

名（49%）である。

回答者の出身地に関しては次の図1の通りである。半数近くが広島県出身である。また、広島県出身者には備後地域と安芸地域いずれの出身化ということも確認した。備後地域を出身とする者が38名（全体の41%、広島県出身者の84%）を占めた。また、広島県以外の中国・四国地方出身者まで合わせると、全体の78%を占めた。

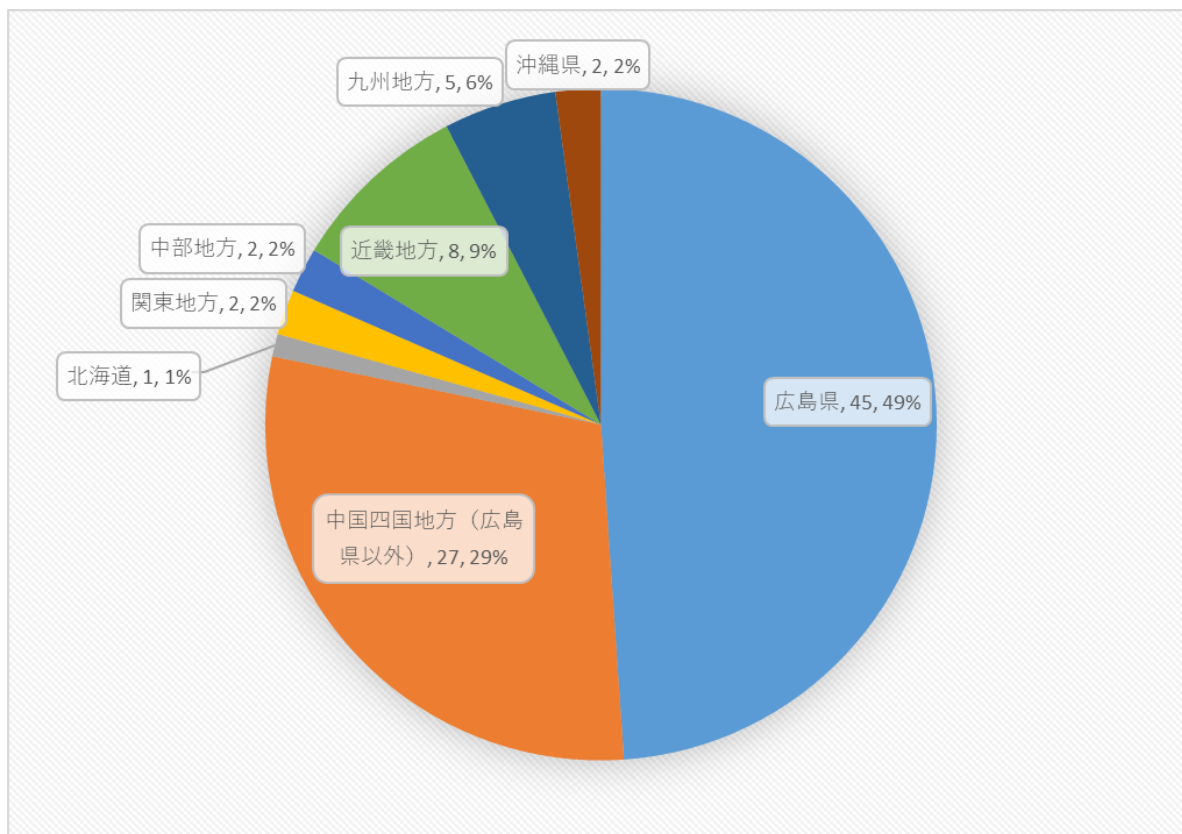


図1 出身地内訳

各方言の回答結果については、「使用する」を4pt、「過去使用した」を3pt、「聞いたことはある」を2pt、「知らない」を1pt、「分からない」を0ptとして、平均値を出した。

以下、平均値が上位10%方言との下位10%の方言を挙げる。括弧内には平均値を小数点以下第2位まで示す。まず、表2に平均値が高い方言を挙げる。

表2 平均値が上位10%の方言

方言	共通語	方言例文(共通語訳)	平均値
つまらん	だめだ、つまらない	おとーさんのおってんときに言わにやーつまらん (お父さんのいらっしゃるときに言わなくては駄目だ)	2.98
たいぎー	疲れた	用例なし	2.89
めげる	壊れる、だめになる	ていねいにせんと、めげるでー (丁寧にしないと壊れるよ)	2.76
よーる	言っている	何よーるん(何を言っているの)	2.63

はぶてる	腹を立てる	そが一なことで、はぶてちゃーみっともない (そんなことで、腹を立ててはみっともない)	2.57
たちまち	とりあえず	たちまち宿題だけでも片づけとけ (とりあえず宿題だけでも片づけとけ)	2.42
きばる	励む、頑張る	朝と一から、きばりよるのー (朝早くから、精を出すねえ)	2.32
みやすい	たやすい、簡単だ	この問題はみやすい(この問題は簡単だ)	2.32

平均値が最も高いのは「つまらん」となったが、これについては注意が必要である。広島県の方言の「つまらん」の意味は「だめだ、つまらない」とあるが<sup>2</sup>、回答者は「つまらん=面白くない」という意味で「使用する」と回答している可能性が高かった。アンケート調査の実施後、「駄目」という意味で「つまらん」を使うか口頭で尋ねたところ、調査の数値に反して「知らない」「使わない」と答えた大学生が多かった。従って、改めて確認する必要がある。「つまらん」以外の方言については、「標準語だと思っていた」「よく使う」などの意見があった。

なお、上位10%には入らなかったが、「きばる」「みやすい」の次に平均値が高かったのが「えっと」(2.19)である。

そして、「えっと」のさらに下位に「おどれ」(1.91)「えーかわん」(1.88)がある。この2語については、アンケートに協力した学生から、

- ◇ 「おどれ」はドラマとかで言いそうな感じがするし、広島方言とされている感じはするけど、実際に言うことはない。
- ◇ 「えーかわん」は言わないけど、「よーかわん」なら言う。
- ◇ (上記の意見に対して)「よーかわん」も言わん。

といった意見が得られた。

このことから、平均値が2を超える方言についてはある程度「使う」といえそうであった。一方、平均値が2を下回ると、大学生にとって馴染みの薄い方言となっていくようであった。

上位に挙げた方言の傾向として、「めげる」や「たちまち」などの例外もあるが「たいぎー」「よーる」「はぶてる」「きばる」「みやすい」など「人の感情や動作、認識」に関連するものが多いように見受けられた。

なお、今回は辞典を参照してアンケート調査を行ったが、大学生から「たわん(共通語で足りない、届かない)をよく使うけどアンケートに入らなかった」という意見が得られた。その後、調査を進めたところ、福山市ホームページに「備後福山地方の方言」<sup>3</sup>があり、「たう」「たわん」などの方言が挙げられていた。今後は、こうした資料を参照し、改めてアンケート調査を行いたいと考えている。

次に、平均値が低い方言を挙げる。

<sup>2</sup> 『日本国語大辞典 第二版』の「つまる」の親見出しに「つまら=ない[ぬ・ん]」が見られる。その「つまら=ない[ぬ・ん]」方言の項目に「(3)役に立たない。無益だ。だめだ。」の記載がある。

<sup>3</sup> <https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/uploaded/attachment/239682.pdf>

表3 平均値が下位10%の方言

方言	共通語	方言例文(共通語訳)	平均値
そーれん	葬式、葬儀	立派なそーれん、あげんさったそうな (立派な葬式をあげなさったそうだ)	1.03
ふるつく	鼻	ふるつくが「のりつけほーせ」ゆーて、鳴きよるぞ (鼻が「糊つけ干せ」と鳴いているよ)	1.03
ぼーぶら	南瓜、かぼちゃ	ことしの夏あー、暑かったけー、ぼーぶらが、よく採れた (今年の夏は暑かったから南瓜がよく採れた)	1.03
きょーとい	おそろしい、怖い	あないなきょーとい事件、初めてや (あんな恐ろしい事件は初めてだ)	1.02
こくば	枯れ松葉、落ち松葉	秋ん、なりやー、こくば集めて、いもー焼くかのー (秋になったら松葉を集めて薩摩芋を焼くかねえ)	1.02
にゅーになる	動物が妊娠する	にゅーになったけー、小牛が楽しみじやー (妊娠したから小牛の誕生が楽しみだ)	1.01
はちまん	お転婆娘	あっこなんは、はちまんじゃけー、家にやー、おってなけー (あそこの娘はお転婆娘だから家にじっとしていらっしやらないよ)	1.01
へこさか	逆さま	はなしこんでおったら、ありや、へこさか、ぬーてしもー たでよ(話し込んでいたら、ありや、逆さまに縫ってしまったよ)	1.01
ほぼろをうる	嫁が勝手に里へ帰る	夫と喧嘩して、ほぼろをうったげな (夫と喧嘩して《嫁》が勝手に里へ帰ったそうだ)	1.01
まつぼり	内証金、へそくり	亭主に内証で、一〇〇万円もまつぼりゆー、貯めた (亭主に内証で一〇〇万円も内証金を貯めた)	1.01

下位10%の方言は、平均値が1.01から1.03の間に収まっており、値の上下差が少ない。「聞いたことがある」が1名~2名、それ以外は「知らない」と答えている。

#### 4. 方言アンケート調査の活用

アンケート結果をもとに、若年層の方言に対する認知を地域でどのように活用できるかを検討した。まず、方言と共通語の意味を対応させるクイズ「福山市周辺で生き残っている方言は？」を作成した。平均認知度が上位10%の方言を「クイズ①」、下位10%の方言を「クイズ②」として分類し、大学の授業体験やオープンキャンパスの模擬授業で実施した。次のページに挙げる。

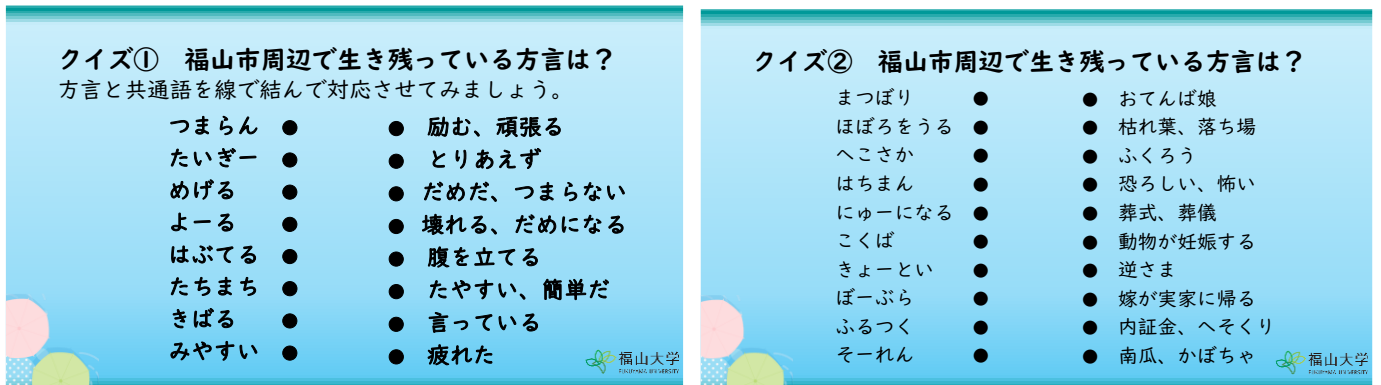


図2 アンケート調査結果を踏まえた方言クイズ①②

高校生、引率の教員、保護者に取り組んでいただいた結果、大学生と同様にクイズ①の方言は認知度が高く、容易に解けるということが明らかになった。一方で、場が盛り上がるのはクイズ②であった。理由としては、高校生がひとりで解くことが難しく、周りとの相談したり、引率の教員の意見を聞いたり、保護者と相談したりと、会話が促進されるためである。方言に興味を持ってもらうという狙いとしては、会話を促進し、イベントを盛り上げることも重要な要素であると考えられる。

上記の結果を2024年8月に筑紫日本語研究会で発表したところ、「考えたら分かるクイズにしたほうが良い」という意見を得た。方言は「知っているか・知らないか」がクイズを解けるか否かに関わり、方言を知らない場合はまったく解けないということもあり得るためである。イベントでは司会進行の工夫によってクイズを楽しいものにすることも可能だが、難易度やクイズの出し方について検討の余地があることが分かった。

## 5. 方言研究会の結成と方言クロスワードパズル・脱出ゲームの作成

これまでの内容を踏まえ、大学生とともに備後方言の活用方法を検討した。メンバーは、アンケート調査やクイズの実施を通じて方言に関心を示した2年生を中心に募り、1年生を含めた方言研究会のチームを結成した（2年生4名、1年生2名）。2年生を中心とした理由は、3年生以上になると各研究室に所属し、個別の研究テーマに取り組むため、低学年に比べて関心の幅が狭くなる傾向があるためである。

2024年9月、最初にチーム全員で集まり、備後地域の方言を幅広い世代、外国籍や障害があるなど様々な価値観を持つ人と共有できるコンテンツを作るという趣旨を確認した。次に、方言研究会のチーム名、チームカラー、マスコットキャラクターを考えた。この作業は90分（大学の授業1コマ分）を要した。

◇ チーム名は「Fuku Dialect」とした。これは、学生たちの在籍する大学である福山大学の略称「ふくだい（福大）」と方言を意味する「Dialect」を合わせた造語である。

◇ チームカラーは、福山大学人間文化学部の学部カラーに寄せて<sup>じんざもみ</sup>甚三紅とした。

◇ マスコットキャラクターは福山市の市章であるコウモリをイラスト化し、ネクタイとリボンをつけた。名前を学生たちに馴染みの深い方言「タウ（足りる）」と「タウン（足りない）」とした。

キャラクターは図2のようなラフ画を完成させ、プロのデザイナーに依頼して図3のようなキャラクターに仕上げていただいた。

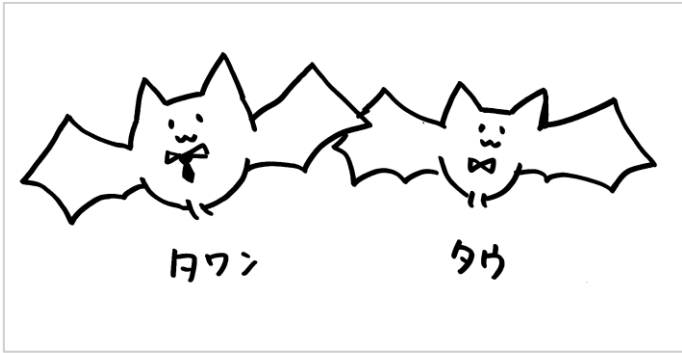


図3 タウとタワンのラフ画

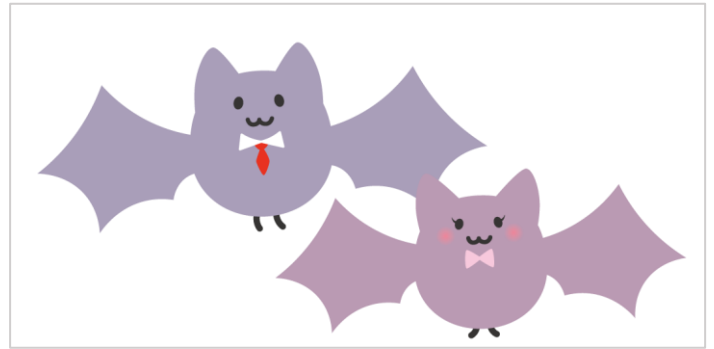


図4 プロにデザインされたタウとタワン

次に、方言を活用したツールについてチームで検討した。

クロスワードパズルに関しては比較的早い段階で意見が出てまとまった。

また、話し合いを進めるなかで、ヒントを手掛かりにして部屋を脱出する脱出ゲームが面白いのではないかと、という意見が出た。

他に、カルタなどの案もあったが、最終的にはクロスワードパズルと脱出ゲームの2点を検討することにした。なお、ツールの検討も、チーム名などの検討と同じく90分を要した。

クロスワードパズルと脱出ゲームの検討は、1週間に1回(90分)の集まりを約2ヵ月間続け、12月に素案が完成した。図5は11月中旬～下旬に完成したExcelの素案に1年生が描いたイラスト(ラフ画)を追加したものである。図6はラフ画を拡大したものである。

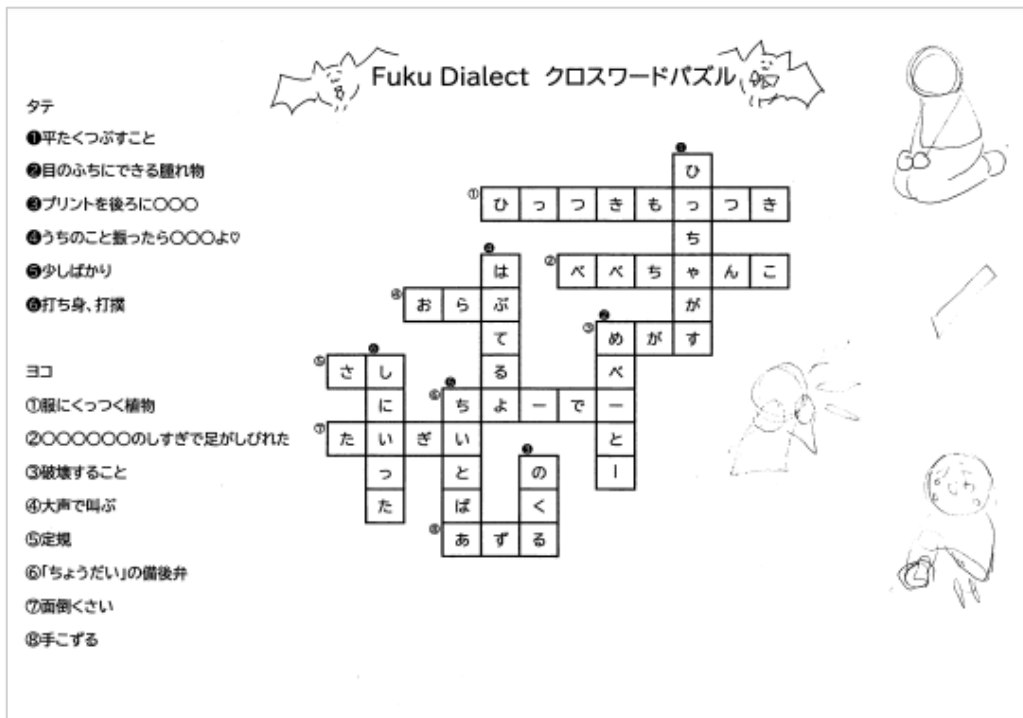


図5 クロスワードパズル素案

<sup>4</sup> 集まりがない週も含めて、2024年9月下旬から2024年11月末頃までがクロスワードパズルと脱出ゲームの検討ならびに作業期間である。なお、低学年は修得すべき科目が多く、チーム全員の空き時間の確保が困難であったことも書き添えておく。





図6 クロスワードパズル掲載用のラフ画  
 (左)打ち身を作って泣く人 (中央)叫ぶ人 (右)正座に耐える人

素案やラフ画をもとに、12月中旬までデザイン業者と打ち合わせを繰り返し、最終的に次のようなデータが仕上がった<sup>5</sup>。

**クロスワードパズル きたえ**

「へっちゃがす」もOK!

ひ っ つ き も つ つ き  
 ち  
 は  
 べ べ ち や ん こ  
 お ら ぶ  
 て る  
 め が す  
 さ し  
 に ち よ ー で ー  
 た い ぎ ー  
 つ と の  
 た ば く  
 あ ず る  
 「たいぎい」もOK!

全部解けたら  
 備後弁マスター!  
 普段なにげなく  
 使っている言葉も実は  
 方言だったりするよ!

**備後方言クイズ きたえ**

中世	近世	近代	現代
平安	鎌倉	室町	江戸前期
		江戸後期	明治
		大正	昭和前期
		昭和後期	平成
			令和
			1241年初出
			1275年初出
			1383年初出
			1500年頃
			1500年頃
			1648年頃?
			1775年初出
			1800年初出
			1883年初出

備後弁には  
 それぞれ長い歴史が  
 あるんだね!

**タテのカギ**

- 1 平たくつぶすこと
- 2 目のふちにできる腫れ物
- 3 プリントを後ろに〇〇〇〇 (難易度☆☆☆☆)
- 4 うちのこと振ったら〇〇〇〇〇〇 (Fuku)
- 5 少しばかり
- 6 打ち身、打撲

**ヨコのカギ**

- 1 脳にくっく植物
- 2 〇〇〇〇〇〇のしずぎで足がしびれた (お痔さん履りにもまろ)
- 3 破壊すること
- 4 大声で叫ぶ
- 5 定規
- 6 「ちようだい」の備後弁
- 7 面白いくらい
- 8 手こずる (難易度☆☆☆☆)

答えは裏表紙を  
 見てね!

次は方言クイズに挑戦! 中面へGO!

図7 方言クロスワードパズル完成版

クロスワードパズルの方言は、大学生が使用すると答えた「はぶてる」や「たいぎー」、チームの学生たちが幼少期に使用していた「ひつつきもつつき (服にひつつく植物)」、家族 (主に祖母) から教わった「めべーとー」などを含めた。また、クロスワードパズルの形式を保つために方言辞典やインターネットも参照した。「あずる」や「へっちゃがす (ひっちゃがす)」は難易度が高いのではないか、学生たちが住んでいる地域に限定されて使用さ

<sup>5</sup> 図7の左ページに備後方言クイズとあるが、これは筆者が方言の歴史を説明するために作成したクイズの解答である。

れているのではないかなど、話し合いを重ねて検討した。

このクロスワードパズルに関しては、12月13日に中学生と高校生が大学の授業体験に訪れた際に使用した。「ひつつきもつつき」「さし」「ちよーでー」「ちーとばあ」「はぶてる」は比較的早い段階で埋まったが、「のくる」や「おらぶ」はやや時間がかかった。また、「べべちゃんこ」は「正座のイラスト」がヒントになっているが、中学生たちによると「お姉さん座り」ならすぐに言葉が出てくるとのことだった。この情報を踏まえて、ヒントに「お姉さん座りにも言う」という文言を追加した。最後まで埋まらなかった方言は「あずる」であった。今後も、イベントなどでこのクロスワードパズルを使用し、中高生や地域の方の反応や意見を見て、改良を重ねていきたいと考えている。

脱出ゲームに関しては、部屋を脱出するための11のヒントを方言で作成し、ヒントの隠し場所などを揃えている。2025年度に公開講座で実施することが目標である。

## 6. おわりに —今後の展開—

今回は、大学生の方言の認知や使用状況について確認し、ツールを作成して一部を活用するとことに留まったが、今後は地域での公開を目指していきたいと考える。

大学生は、授業中に提示された方言に興味を持つと、親や祖父母に使うかどうか尋ねるなど、積極的に学びを深めた。クロスワードパズルに関しても、あるチームの学生は、制作途中で「母に解いてもらいました」と言って添削されたクロスワードパズルを提出してくれた。

一方で、授業中に「伝統方言は残していかなければならないのか」「伝統方言を残していく必要性を感じない」という意見が出て、活発に意見交換を行うこともある。「伝統方言は無理に残さなくても良い」と考えている学生が、方言を嫌っているとか、使いたくないと考えているというわけでもないのである。方言の使い方も、方言や地域との関わり方も、人それぞれになってきていると感じる。

筆者は、2024年5月に『やまの続編 ほろびゆくわがまほろばのことは』を刊行した山野民俗資料保存会の方々から話をうかがった。当該地域では、子どもの数が少なく、このままでは方言が絶滅してしまうという思いから、方言を収録し、刊行するに至ったという。今後は、山野民俗資料保存会のような地域あるいは個人で方言保存活動を行っている方たちの取り組みと、今回取り上げた大学生の取り組みを相互に紹介することで情報や価値観を共有し、福山大学をハブとして、幅広い世代、様々な人々と地域方言の研究に取り組めるような環境を整えていきたいと考えている。

## 先行研究

衣畑智秀編 (2019) 『基礎日本語学』 ひつじ書房 p. 230

菊永ふみ(2024) 「異言語脱出ゲームの取り組み」『日本語学会 2024年度秋季大会予稿集』 シンポジウム 多文化社会のための複言語教育：ことばの研究の社会的役割とは pp. 131-136

佐藤和之 (1996) 『地域語の生態シリーズ 東北篇 方言主流社会 —共生としての方言と標準語—』 おうふう

佐藤高司(2016) 「これからの方言教育のあり方 —「ぐんま方言かるた」を用いた実践活動をもとに—」『共愛学園前橋国際大学論集』 第16号 pp. 87-96

松田美香(2024) 「大分県『野津原方言集』—保存・継承・研究の取り組み」第56回九州方言研究会

研究公開参照 URL <https://www.beppu-u.ac.jp/oer/oa/notsu.html>

古川初義・前田桂子・門屋飛央(2017)『長崎県小値賀町藪路木島方言集：無人になった島のことばの記録』私家版  
斎藤敬太(2023)「東北地方在住の日本語非母語話者を対象とした 方言理解支援ツールにおける翻訳上の問題点 —  
東北諸方言とインドネシア語の対照研究—」『津田塾大学紀要』55 pp. 219-252  
岩崎真梨子・市原晋平・両角遼平(2024)「[大学生と共同で作る方言ツール—方言研究をどのように生かすか—」第  
300回 筑紫日本語研究会 発表レジュメ

## 参考文献

佐藤亮一編(2009)『都道府県別 全国方言辞典』三省堂  
高橋孝一(1985)『びんごばあ 備後福山地方の方言』キングパーツ  
藤岡榮(1994)『すたれゆく 備後の方言』佐藤商店  
中国放送編(1979)『広島くらしのことば』第一法規出版  
山野民俗資料保存会(2024)『やまの続編 ほろびゆくわがまほろばのことは』山野民俗資料保存会

## 付記

本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C) (課題番号 22K00535) による助成を受けたものである。  
本研究は、福山大学教育振興助成による助成を受けたものである。共同研究者の人間文化学部 人間文化学科 市  
原准教授ならびに両角講師より、様々なアドバイスをいただいた。感謝申し上げます。  
第300回筑紫日本語研究会(九重合宿)では、発表に際し貴重なご意見をいただいた。感謝申し上げます。  
*We would like to thank Editage ([www.editage.jp](http://www.editage.jp)) for English language editing.*

参考資料 アンケート調査ページ一部抜粋

【個人情報編】

研究以外の目的では使用しません。氏名は回答内容に含めません。  
このアンケートへの回答は、授業の評価には関わらないものとします。

①年齢を教えてください。

1.1

- 1.  10代
- 2.  20代
- 3.  30代以上

②性別を教えてください。

1.2

- 1.  男性
- 2.  女性
- 3.  回答しない

③3歳～15歳頃までで最も長く生活した都道府県を教えてください。

1.3

- 1.  広島県
- 2.  広島県以外の中国四国地方
- 3.  北海道
- 4.  東北地方
- 5.  関東地方
- 6.  中部地方
- 7.  北陸地方
- 8.  近畿地方
- 9.  九州地方
- 10.  沖縄県
- 11.  その他(海外含む)

④-1

④の回答で「広島県」を選択した人は、備後地域か安芸地域が選んでください。

1.4

- 1.  備後地域
- 2.  安芸地域
- 3.  分からない

④-2

④の回答で広島県以外を選択した人は、都道府県(可能であれば市区町村)を記述してください。

④-1で3. 分からないを選択した場合も、市区町村名を記述してください。

1.5

⑤3歳～15歳の間に、複数回あるいは県外への引っ越しを経験しましたが、

1.6

はい  いいえ

⑥⑤で「はい」を選択した人は、どの地域からどの地域に引っ越したか記述してください。

(例 兵庫県から大阪府 広島県福山市→広島県広島市→香川県高松市など)

1.7

【方言について】

以下の方言について、1.使用する 2.過去に使用していたが、今は使用しない 3.聞いたことはあるが使用しない 4.知らないの4つのうちいずれか1つを選んでください。どうしても分からない場合は5.分からないを選んでください。

1. あずる……でこずる。あかく。難儀する。

例 近頃、着物めったにきんげい、着付けにあずってしもーた  
(= 近頃、着物をめったに着ないから着付けにてこずってしまった)

1.9

- 1.  使用する
- 2.  過去に使用したが、今は使用しない
- 3.  聞いたことはあるが使用しない
- 4.  知らない
- 5.  (1～4のいずれでもない場合)分からない

2. あばすれる……騒ぎたてる。ふざける。

例 お姉ちゃんが勉強しよーるんじゃけー、あばすれちゃー、いけんじゃないか  
(= お姉ちゃんが勉強をしているのだから騒ぎ立ててはいけないうじゃないか)

1.10

- 1.  使用する
- 2.  過去に使用したが、今は使用しない
- 3.  聞いたことはあるが使用しない
- 4.  知らない
- 5.  (1～4のいずれでもない場合)分からない

3. あらましな……粗雑だ。そんざいだ。

例 やってろしてもえーが、あの人は仕事があらましなけーのー  
(= やってらってもいいが、あの人は仕事が粗雑だからねえ)

1.11

- 1.  使用する
- 2.  過去に使用したが、今は使用しない
- 3.  聞いたことはあるが使用しない
- 4.  知らない
- 5.  (1～4のいずれでもない場合)分からない

4. あんびん……稲入り餅。

例 秋の取り入れも済んだけー、あんびんつくろーや  
(= 秋の収穫も済んだから稲入り餅を作ろうよ)

1.12

- 1.  使用する
- 2.  過去に使用したが、今は使用しない
- 3.  聞いたことはあるが使用しない
- 4.  知らない
- 5.  (1～4のいずれでもない場合)分からない

# Proposals for Learning Bingo Dialect by University Students —Crossword Puzzles and Escape Games—

Mariko IWASAKI

Regional dialects play a crucial role in preserving cultural identity and linguistic diversity. This study explores innovative approaches to learning and preserving the Bingo region dialect through university-led research and student engagement. We discussed in groups how to acquire the local dialect, focusing on university-led research on dialects within the community. Our approach involved: (1) assessing young people's, particularly university students', awareness of the Bingo region dialect through a survey; (2) establishing a university-based dialect research team; and (3) creating dialect-themed crossword puzzles and escape games. Additionally, students proactively sought information about local dialects from their families. Our future plans involve sharing our developed resources with the community and partnering with individuals dedicated to dialect preservation and transmission to enhance regional dialect studies.

**【Keywords : practical dialect research, regional dialects, Bingo dialect, field report】**